

通し番号	3972
------	------

分類番号	15-34-13-03
------	-------------

(成果情報名) ナシ「幸水」の心腐れ症軽減技術
[要約] 「幸水」心腐れ症の発生を軽減するには、開花30日後の果実の向きが、真上向きであったり、ていあ部に花かすが付着している果実、萼筒が大きな果実を摘果し、横向きの果実を残すと良い。また、収穫適期は表面色カラーチャートで3程度を目安とし、遅れないよう注意する。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 生産技術部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ナシ「幸水」の果実で発生する「心腐れ症」は、胴枯病菌(Phomopsis属菌)のていあ部からの感染が主因とされ、主感染期は開花から開花45日頃までと言われている。発症は成熟期から収穫期であるため、幼果期に感染果実を見分けることはできない。ここでは、幼果期の果実の向き等と「心腐れ症」の関係を調べ、摘果技術による「心腐れ症」軽減を検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 着色3~4(カラーチャート値)で収穫した果実では、開花30日後に上向きの果実が横向きの果実よりも心腐れ症の発生率が高かった(表1)。
- 2 開花30日後に上向きで、ていあ部に花かすが付着した果実は、花かすがない果実に比べて、心腐れ症の発生率が高かった(表2)。
- 3 着色3~4の範囲では、着色が進むほど心腐れ症の発生率が高かった(表3)。
- 4 萼筒の直径が大きいほど心腐れ症の発生率が高かった(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 開花期から幼果期にかけて、高温湿潤傾向で推移すると心腐れ症が多発しやすいので、そのような気象条件の年は、仕上げ摘果でできるだけ横向きの果実を残すようにする。
- 2 横向き果実は、上向き果実よりもやや果実肥大が劣る傾向があるので、注意する。

[ 具体的データ ]

表1 平成14年の「幸水」収穫果\*の心腐れ症発症率

	平均果重 (g)	心腐れ果率(%) (累積)**	
		8/20 (収穫当日)	8/21 (翌日)
上向き区 (21果)	382.3	23.9	47.6
横向き区 (42果)	389.5	14.3	33.3

\* 収穫日：8月20日 表面色カラーチャート3～4の果実

\*\*心腐れ果は、収穫当日は外観の疑わしい果実を切断、翌日は全果実を切断して調査  
注) ( )内は調査果実数

表2 平成15年の「幸水」収穫果\*の品質と心腐れ症発症率

	平均果重(g)	果皮色	心腐れ果率(%)	糖度(Brix%)
上向き区 (17果)	352.8	3.21 a	5.9	11.68 a
上向き花かす区(10果)	350.6	3.10 ab	20.0	11.76 ab
横向き区 (17果)	317.5	2.71 b	0.0	10.74 b
	ns	*		*

\* 収穫日：8月19日

注1)多重比較は、Tukey検定による。異なる英文字間で有意

注2)果皮色は農水省果樹試基準カラーチャート使用

表3 着色別心腐れ症発症率(平成14年)

カラーチャート値	心腐れ果率
4	45.8%
3.5	16.7%
3以下	12.5%

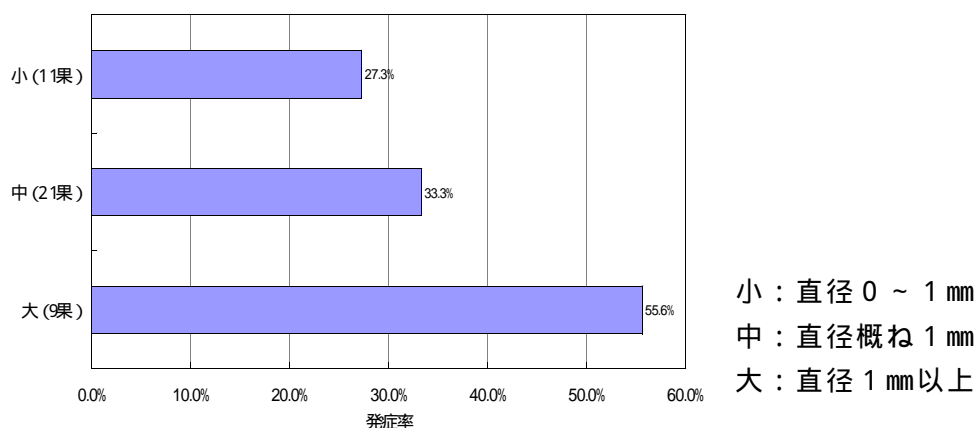


図1 萼筒の大きさ別の心腐れ症率

[資料名] 平成15年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] ナシ心腐れ症軽減のための着果法の検討

[研究期間] 平成14～15年度

[研究者担当名] 北尾一郎・川嶋幸喜・柴田健一郎